



世界的建築家・安藤忠雄氏による感染症研究棟を大阪大学に。

日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクト「感染症研究棟整備事業」
12/16(木)に記者発表会(12:30~@吹田 C(微研・谷口記念講堂)およびオンライン)

❖ 趣旨

このたび、大阪大学と日本財団が進める「日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクト」において、「感染症」に関するオープンイノベーションを推し進めていくため重要な役割を果たす「場」としての研究棟のコンセプトデザインを、世界的建築家・安藤忠雄氏に引き受けていただくこととなりました。

12月16日(木)に大阪大学及びオンラインにて、安藤忠雄氏を交えて、本プロジェクトの象徴となる新たな研究棟デザイン、意匠コンセプトを発表します。

つきましては、下記の記者発表会にご参加いただき、本取組やプロジェクトについて積極的な取材をお願いいたします。記者発表会は対面とオンラインの同時開催となります。

ご参加いただける場合は、以下 Web フォームからお申込みをお願いいたします。

❖ 概要

【日 時】 令和3年12月16日(木) 12:30 ~ 13:30 (12:00 開場)

【場 所】 大阪大学微生物病研究所 融合型生命科学総合研究棟 1F 谷口記念講堂 及びオンライン
(大阪府吹田市山田丘 3-1)

【プログラム】

・概要説明

大阪大学総長 西尾 章治郎

日本財団会長 笹川 陽平

建 築 家 安藤 忠雄

*会場には安藤氏デザインの感染症研究棟模型等を設置

・質疑応答

・写真撮影

日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクトおよび本事業について

大阪大学（西尾章治郎総長）と日本財団（笹川陽平会長）は、2021年9月14日に日本財団ビル（東京都港区）の会見において、日本財団の助成で拠点整備費を含めた230億円規模の「日本財団・大阪大学感染症対策プロジェクト」を今後10年間ですすめる予定を発表しました。

（URL：<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2021/20210914-62147.html>）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行で、いくつもの社会課題が明らかになりました。わたしたち社会は、人々の「いのち」を守り、社会・経済活動を維持していく術を持たなければなりません。本プロジェクトでは、今後も起こり得る感染症危機にそなえるべく、長期的視野に立ち、感染症研究基盤を整備して参ります。

大阪大学では、2021年4月に設置した感染症総合教育研究拠点を中心に、研究型総合大学としての多様性を活かし、国内に限らず海外の研究機関とも連携を深め、産業界とのオープンイノベーションを推進し、社会課題の解決に向けて、科学的エビデンスに基づく情報の発信、感染症研究基盤の強化及び感染症医療人材の育成等を行います。

このたび、このプロジェクトの一環として「感染症研究棟整備事業」を始動します。この事業は日本財団の助成を得て、大阪大学が研究棟整備（2025年2月末竣工予定）を行うものです。アンダーワンループで各専門家が集う世界的拠点の形成を目指します。



2021年9月14日共同記者発表会（左：日本財団笹川会長 右：大阪大学西尾総長）

❖ 大阪大学感染症総合教育研究拠点について

新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の流行により、氾濫する真偽不明の情報、軽視されていた感染症の基礎研究、感染症の流行に弱い医療体制など、日本が抱える課題が浮き彫りになりました。これらを教訓に、今回の国難を乗り越え、次なる感染症の流行に備えるため、大阪大学は、大学の知や人材が結集する「感染症総合教育研究拠点（Center for Infectious Disease Education and Research (CiDER)）」を2021年4月に設置しました。<https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html>

日本財団について

日本財団は、1962年の創立以来、国境や分野を超えて公益事業をサポートする、日本最大の社会貢献財団です。

「みんなが、みんなを支える社会」を実現するため、子ども・障害・災害・海洋・国際協力などの分野に取り組んでいます。<https://www.nippon-foundation.or.jp/>



大阪大学について

大阪大学は、1931年に帝国大学の一つとして創立された、11学部、16研究科、6附置研究所等を擁する我が国有数の研究型総合大学です。

「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」になることを目指しています。<https://www.osaka-u.ac.jp/ja>

